

支援対象団体	事業名	子育て支援事業及び子どもの居場所・体験事業☒
	事業名（副）	
	団体名	特定非営利活動法人子どもパートナーズHUGっこ

Ⅰ.団体の社会的役割

(1)団体の目的
地域力や家庭力の低下、経済的困窮や養育不安、地域からの孤立などを背景に、生きづらさを抱える子どもや家庭が増えている。こうした状況に向き合い、支援につながりにくい子どもや家族に寄り添い、孤立や格差の影響を和らげ、自己肯定感や生きる意欲の低下を防ぐことを目的とする。最終的には、すべての子どもと若者、家族や関係者がインクルーシブな地域社会の中で心満たされ、豊かな経験を重ねながら未来への希望を育んでいける社会の実現を目指す
(2)団体の概要・活動・業務
当団体は、生活困窮やネグレクト、マルトリートメントなどの課題を抱える子どもと家庭を対象に、子どもの居場所づくり、学習支援、体験活動、ソーシャルスキル支援等を行っている。対象地域は経済的困窮世帯が多く、参加児童の約7割が何らかの生きづらさを抱えている世帯で、ひとり親世帯や非正規雇用の家庭も多い。近年は物価高騰の影響もあり、孤立や不登校など複合的困難を抱えるケースが増えており、アウトリーチや段階的な参加支援にも取り組んでいる

Ⅳ.事業設計

(1)中長期アウトカム

3年後、学校・行政・地域との協働モデルが確立され、制度の狭間にいる家庭への早期アプローチと継続的な 伴走支援が地域に定着し、当事者が人との関係性の中で安心感と希望を持ち始めている。10年後、家庭、学校・行政・地域がシームレスに連携し、誰もがインクルーシブなコミュニティの中で

未来に希望を持って、主体的に成長できる社会の実現へと歩みを進めている

(2)短期アウトカム	100字	指標	100字	初期値/初期状態	100字
1.アウトリーチ支援により子どもや家庭との 信頼関係が構築され、孤立が改善されている		- 定期的な家庭訪問の実施率 - 家庭からの相談件数 「相談できる相手がいる」と回答した家庭の割合 - 食品支援の提供回数及び世帯数		0/不定期的なアウトリーチは実施している - 数件/記録はとっていない 0/アンケート調査実施前 - 食品等提供58回/世帯数400	
2.地域連携による体験活動を通じて主体的に他者との 関係性を築けるようになり、多様な人との関わりに 充実感を見出すことでウェルビーイングが向上している		- アンケートによる満足度・意識変化 - 自己肯定感・ウェルビーイングの変化 - 子どもの主体性や関係性、地域の理解度の変化		0/アンケート実施前 0/アンケート実施前 - 定性的評価未実施	

3.子どもが自ら選択できる学びの場と個に応じた合理的配慮のもとでの学びが保障され、自己肯定感の向上、レジリエンスの獲得が達成される	・学習支援参加者数・継続率、不登校・行き渋り児童の参加状況 ・学習習慣の定着度、目標達成数 ・アンケートによる自己肯定感・学習意欲の変化 ・第三者との関係性や行動変容	・参加者数24 ・継続率85% ・不登校等割合30% ・0/調査実施前 ・0/調査実施前 ・定性的評価未実施
4.持続可能な団体として、権限移譲の基盤が構築されている	・定款、規程類の見直し完了率 ・管理運営会議実施回数 ・ファイル共有(google workspace)率 ・手順書の作成数 ・研修の実施回数と共有数 ・拠点の確保 利用率	・0/新体制前のため未実施 ・0/新体制前のため未実施 ・28% ・0/手順書無し ・3/マネジメント研修のみ ・1/貸借拠点はあり 年10回程
5.持続可能な法人運営の財源確保の見通しが ついている 行政との連携が強化され、委託事業の予算化が進められている	・行政との勉強会・協議回数 ・ファンドレイジング研修受講回数 ・寄付者・マンスリーサポーター数 ・寄付団体数 ・HP・SNS発信数 ・見学会・交流会実施数 ・助成金申請回数及び採択率	・2回 ・寄付者10数名、マンスリー1名 ・寄付団体 0 ・HP 0/新体制での発信前 ・Instagram 週1 ・見学会、交流会 1 ・助成金申請数4 採択率50%
(3) アウトプット 100字	指標 100字	初期値/初期状態
1-1.ステークホルダーへのアンケート調査・分析とそれに基づく事業計画の策定	・アンケート回答者数 ・分析結果を踏まえて見直した事業計画の件数	0/アンケート未実施
1-2.家庭の悩みや子ども、若者の困り感を相談できる専門職・第3者がいる	・相談件数／件	0/アンケート未実施
1-3. 他NPO等との連携による食品支援・生活支援の実施	・食料／生活支援実施回数	月に2回、初期値10件
2-1.ステークホルダーへのアンケート調査・分析とそれに基づく事業計画の策定	・アンケート回答者数 ・分析結果を踏まえて見直した事業計画の件数	0/アンケート未実施
2-2.地域におけるこどもの居場所は、福祉的支援の場ではなく、すべての子どもの成長・発達に不可欠な社会資源として機能し、理解され	・居場所活動に関する広報物配布数	1/広報チラシ
2-3.集団遊びや居場所活動への参画を通して、楽しく笑顔で活動できる機会が増えている	・居場所活動の実施回数 ・参加した子どもの延べ人数	4/1か月

3-1.ステークホルダーへのアンケート調査・分析とそれに基づく事業計画の策定	・アンケート回答者数	0/アンケート未実施
3-2.不登校や行き渋りの子ども達が親や先生以外の第3者との関係性が構築され、学ぶ楽しさや意欲を獲得している	・継続参加している子どもの人数	0/アンケート未実施
3-3.個に応じた学びの保障を通して、自己肯定感が醸成され始めている	・自己肯定感に関する簡易アンケート実施回数	0/アンケート未実施
4-1.インクルーシブな地域社会づくりを支える基盤として、グッドガバナンス認証取得を見据えた組織体制の強化に取り組んでいる。	・整備した規程・文書数	0/整備途中の規程が3
4-2.管理運営スタッフに組織運営についてのノウハウが身について、各自の役割と権限が明確になっている	・役割分担表の作成有無 ・担当業務マニュアルの作成数	0/作成途中 0/検討中
4-3. 拠点が確保され、運営管理作業の効率化と透明性が高まっている	・拠点確保の有無	0/
5-1. 行政との連携が強化され、委託事業の予算化が進められている	・行政担当部署との面談回数	1/子ども家庭センター
5-2. ファンドレイジングのスキルを身につけたスタッフがいる	・資金調達計画の作成有無 ・ファンドレイジング研修参加人数	0/ 1/
5-3. 寄付やマンスリーサポーターが増加している	・寄付者数 ・マンスリーサポーター数	10/昨年度実績 1/昨年度実績

(4) 活動	
1-1-1.アンケート項目の設計（孤立傾向、支援ニーズ、地域資源の認知度等）、作成。 1-1-2.アンケート調査の回収・集計・クロス分析を実施。 アンケートの結果、地域の子どもや家庭の孤立状況や支援ニーズを把握することができ、分析結果をもとに支援計画を策定することができる。本活動により、孤立傾向にあり、実態の見えにくい家庭の潜在ニーズも明らかになり有効な支援につなぐことが可能となる。	194/200字

1-2-1.緊急時の連絡体制の整備、共有 1-2-2. 行政、学校、専門職とのケース会議の実施 連絡体制が明確になることで、虐待リスクや急な生活困難などの緊急ケースに即応できる。また、ケース会議により、学校・行政・専門職が持つ情報アウトリーチで得た情報も共有され、支援の盲点が減る、支援方針が統一される。 家庭に対して一貫したメッセージを届けられるため、混乱や不信感が減る。	189/200字
1-2-3.対象家庭への定期的な訪問(2週間に一度)と 食品・生活支援、対話を通しての信頼関係の構築 1-2-4. スモールステップで地域や他の居場所につなげたり、必要に応じて家庭学習の支援を実施 活動を通して、孤立傾向にある家庭や子どもが支援者だけでなく徐々に、人々の信頼やつながりといった、目には見えない関係性ソーシャルキャピタル（社会関係資本）の構築につながる	183/200字
1-3-1.食品支援、食糧支援の連携調整 1-3-2. 食品、食糧、生活支援物資の調達 1-3-3. 他NPOとの合同会議や研修会への参加 1-3-4. 新規協力企業、農家、個人の開拓 食支援の訪問を通じて、生活状況・困りごとの把握が進む 他NPOや行政との情報共有がスムーズになり、支援の見立てが正確になる。また新規の協力者の開拓は持続可能な活動につながる	180/200字
2-1-1. 対象となるステークホルダーごとのアンケート項目の設計・作成、配付 2-1-2. アンケート調査の回収・集計・クロス分析	72/200字
2-1-3. 分析結果を踏まえた事業計画の改訂 2-1-4. 事業実施後のフィードバックと次年度計画への反映	60/200字
2-2-1.特定のニーズのある子ども・若者ではなく、すべての子ども・若者に居場所が開放されている 2-2-2. すべての子ども・若者に食事・食品提供の機会が与えられている	100/200字
2-2-3. 他NPO,フードバンク、農家等食品提供者との連携、情報共有、連絡調整 2-2-4. 子ども・若者の変化や成長が学校・地域・行政に可視化されるような広報活動・情報発信がされている	107/200字
2-3-1.スタッフ、ボランティアの研修（受容・傾聴・共感のスキル・体験活動、遊び） 2-3-2.年齢・性別に関係なく参加しやすいゆるやかな遊びの導入がされている	93/200字
2-3-3. 子ども・若者会議の実施され、居場所や体験活動にその意見が反映されている 2-3-4. 異年齢の子ども同士、またはナナメの関係の中で、展開される主体的な遊びがある	104/200字
2-3-5. 地域社会に子どもや若者が自由にのびのびと遊べる場が確保されている 2-3-6.他団体や企業と連携したプロボノ体験の実施	77/200字
3-1-1. 対象となるステークホルダーごと（親と子は別々）のアンケート項目の設計・作成、配付 3-1-2. アンケート調査の回収・集計・クロス分析	83/200字

3-1-3. 分析結果を踏まえた事業計画の改訂	54/200字
3-1-4. 事業実施後のフィードバックと次年度計画への反映	
3-2-1. 平日放課後わくわくクラブの開催(学校以外の 安全安心な居場所)	59/200字
3-2-2. 療育グッズや学習環境の整備	
3-2-3. スタッフは子どもを相対評価しない、比べない関わり方で取り組む	76/200字
3-2-4. 保護者・先生以外の大人やナナメの関係の第3者との関係性を育む取組み	
3-3-1. 学習の習慣化（まずは机に向かうことから）	65/200字
3-3-2. 一人ひとりに応じたためあて、目標の設定（スタッフとの対話から）	
3-3-3. スモールステップ（できた！）の積み重ね（成功体験）	65/200字
3-3-4. 個に応じた認知処理タイプの活用（同時処理、継次処理）	
3-3-5. 強化子による学習への外発的動機付けの実践	49/200字
3-3-6. 次につなげるためのフィードバック	
4-1-1. 定款、規程類が見直され、スタッフに共有・理解されている	65/200字
4-1-2. 組織体制・運営について話し合う場を定期的に設ける	
4-1-3. 経理会計等重要業務のダブルチェック体制が整っている	72/200字
4-1-4. ファイル共有の仕組みを整える（Googleworkspace）	
4-2-1. 運営管理スタッフの役割と権限を整理し、文書化する	60/200字
4-2-2. 各業務についての簡易的な手順書をつくる	
4-2-3. 研修や各自の学びの内容の振り返りと共有をし、実践に活かす	77/200字
4-2-4. 伴走支援（個別面談、マネジメント研修）のフィードバックと情報共有	
4-3-1. 日常的に運営管理作業を行う拠点を確保する	52/200字
4-3-2. 年次報告書の作成と公開	
4-3-3. 行政・学校・企業との協働・連携の記録を明文化し組織として管理する	90/200字
4-3-4. 重要文書は拠点にてファイル管理をし、スタッフが閲覧できるようにしておく	
4-3-5. 各自の業務の進捗管理と予定を可視化する	29/200字
5-1-1. 行政との勉強会の実施（こども家庭庁職員を招いて）	93/200字
5-1-2. 事業の実績、活動報告書等を定期的に行政に提出し、行政が法人の強みを認識している	
5-1-3. 行政の施策との整合性が取れ、予算化しやすい事業設計にする	67/200字
5-1-4. 委託事業化に必要な組織基盤を整える	

[illegible]

	0/200字
	0/200字
	0/200字
